



○理事會開催

昭和十五年一月三十日正午麴町區有樂町日本俱樂部に於て理事會開催、出席者は水野會長、橋本副會部及山田(英)、成田、箕、牧、藤井、青山六理事並に福本外七幹事出席、午饗を共にし、水野會長は、今回土木局長交迭せられたるが、山崎前局長は出席せられざるも同局長は土木行政に關し多大なる理解をもたれ、明年度土木豫算に多額の計上を見たるは全く同局長努力の結果に外ならない。又道路改良會理事としても深甚なる御援助を興へられたるは深く感謝する所である。成田新局長は多年内務省に在りて、各般の

行政に通曉せられ居るを以て、必ずや前局長と同じく土木行政に關しても理解せられ、十分功績を挙げらるゝことゝ信ずる。尙道路改良會は二十餘年間土木局の外廓として存在し、互に援け援けられて今日に至つて居るから成田局長に於かれても本會に對し何分の援助を乞ふとの挨拶を述べられ、成田局長は、今度圖らずも土木局長を命ぜられたるが、土木行政に關しては何等の智識も經驗もないが衷心から努力する存念である。尙道路改良會理事としても誠意を以て盡すものであるから、何分にも會長閣下其他各位の御援助御指導を希ふ次第であるとの答辭を述べられた。食後水野會長より本年初めての理事會を開く旨を宣し、福本幹事より明十五年の道路に關する豫算の内容につき説明し、且つ會長副會長の大藏省其他の方面に豫算諒解の爲め交渉の勞を執られたることを謝するところがあつた。次で會務に關し懇談を遂げ二時散會。

○道路功績者の表彰

本會道路功績者表彰規程により二月十一日左の通表彰、關係地方廳にそれぞれ傳達方を依頼した。

表彰狀 鳥取縣日野郡江尾村道路愛護會

表彰狀 二等功績章 單杯一個

福島縣道路工夫 長澤 惣太郎

表彰狀 一等功績章 三ツ組木杯一組

栃木縣道路工夫 柴田 金吾

同 同 福富 爲三郎

同 同 仲田 常四郎

同 同 渡邊 森吉

表彰狀 青森縣東津輕郡新城村道路愛護會

表彰狀 一等功績章 三ツ組木杯一組

青森縣修路工夫 木下 吉三郎

表彰狀 二等功績章 單杯一個

同 吉田 力之助

表彰狀 秋田縣山本郡向能代道路愛護會

表彰狀 單杯一個

同 秋田縣平鹿郡淺舞町 柴田 龜藏
同 秋田縣山本郡粕毛村粕毛尋常高等小學校長

夏井 節三

表彰狀 一等功績章 三ツ組木杯一組

秋田縣道路工夫 加賀谷藏之助

同 同 工藤 松之助

同 同 阿部 三次郎

同 同 高橋 堅治

表彰狀 群馬縣佐波郡三郷村道路愛護會

同 群馬縣勢多郡新里村男女青年團

同 群馬縣勢多郡木瀬村道路愛護會

表彰狀 二等功績章 單杯一個

群馬縣修路工夫 吉田 賢次郎

同 同 木村 嘉三

同 同 尾島 政治

表彰狀 滋賀縣蒲生郡朝日野村道路愛護會

同 滋賀縣東淺井郡七屋村道路愛護會

同 滋賀縣高島郡本庄村道路愛護會

表彰狀 二等功績章 單杯一個

滋賀縣修路工夫 原田 德盛

同 同 奧村 藤吉

同 同 金澤 精一

同 同 服部 太郎

表彰狀 宮城縣伊具郡大張村道路保護組合

表彰狀 二等功績章 單杯一個

宮城縣修路工夫 南館 養治

同 同 渡邊 愛藏

同 同 齋藤 正太郎

表彰狀 二等功績章 單杯一個

島根縣修路工夫 田中 文太郎

同 同 樋野 茂助

同 同 川井 榮三郎

同 同 谷山 嘉太郎

同 同 西村 熊藏

同 同 成相 榮吉

同 同 小谷 助一

同 同 中田 常市

同 同 嘉戶 肇

同 同 西坂 恒治

同 同 藤井 菊市

表彰狀 一等功績章 三ツ組木杯一組

茨城縣道路工夫 小島 金作

同 同 埴 丑三郎

表彰狀 二等功績章 單杯一個

同 同 中村 常一

同 同 岡田 吉次郎

表彰狀 一等功績章 三ツ組木杯一組

神奈川縣道路監守 齋藤 熊太郎

同 同 富澤 辰藏

同 同 和田 愛之助

同 同 千葉 吉朗

表彰狀 二等功績章 單杯一個

同 高橋 金藏

◎内務省土木試験所談話會

第一九九回技術談話會話題

時日 昭和十五年一月二十六日(金)午後一時半—四時

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試験所講堂

一、全木橋の設計に就て(四〇分)

齋藤 技師
鈴木 技師

二、全木橋の弦材接合部の構造及び強度に關する試験

(三〇分)

村上 永一

三、フィリッピン特に日本技術者の手に成る

マニラーバキオ間二五〇軒の道路(映畫)

(一時間)

早大建築科教授 内藤多仲氏
博

〔參考〕 日本道路技術になるフィリッピンベンゲット

道路フィリッピンマニラ市を去る北方二五〇軒、ベンゲ

ット山脈一三〇〇—一六〇〇米の山岳地帯にバキオ市があ

る。二四〇〇米の高山に挟まれた山中の都。フィリッピン

第一の避暑地、渺茫たる支那海を眼下に展開してゐる。氣温三四度——三八度、夏季は大統領始め此處に來り政治の中心となる事、印度のダージリンと同じだ。此のバキオ市に至る道路はベンゲット道とナギリアン道の二つがある。

ベンゲット道は國費六〇〇萬ペソ、數百の犠牲を拂つた大難工事であるが、これは全く日本人の手により、日本の労働者によつて完成したのである。此道路こそ日本人が比島に確固たる地歩を占むる根底を作つた絶好の機會となつた。

明治三二年、米軍が比島ベンゲット州を征服したが、バキオの地を相して避暑地とし、夏季政治の中心としやうとしたが、交通不便は言語に絶し、速急に道路開設を要した。直に米人技師ノーマン・タブルユウ・オームズを主任として工事に着手した。始め比島人の労働者のみを集め毎日千人を使役したが遅々として進捗しない、茲に日本人の技術と經驗とを要求されるに至つた。

當時移民法の關係から障害もあつたが、明治三六年始め

てフィリツピン移民として入國し、約一五〇〇人の本邦人が此ベンゲット道改築に當り、間もなく日露開戦となつたが致々として従事し、旅順開城の報をきつゝ明治三八年一月、全延長二五〇杆の大工事を完成したのである。

已に三四年を経過した今日、自動車のドライブに邦人の流汗の跡を見比島發展の先驅者の念を禁じ得ない。一日の行程、早朝マニラ市を立つて夕刻ベキオ市のホテル、別荘を松林中に點々として散見しつゝ都心に入る。

今日ダバオ地方と此ベキオ地方は全く邦人發展の域で商業權を收め、トリニダツト邦人經營の農園は全部マニラ市場を風靡し、四〇〇の邦人の堅實なる發展は日本人會が小學校を經營してゐる事、支那租界と同様で此偉大なる功績流汗の結晶、ベンゲット道を回顧して止まない。

第二〇〇回技術談話會話題

時日 昭和一五年二月十六日(金)午後一時半—四時

場所 本郷區駒込上富士前町二六 内務省土木試驗所講堂

一、鐵筋コンクリート・ロツカーの設計並に

其設計荷重に對する安全性に關する試験

(三〇分) 一木 保夫

二、土堰堤用土質試験報告 (二〇分) 星埜 技師

三、級數に展開して變斷面長柱の挫屈荷重

を求むる方法 (四〇分) 横田 技師

四、擁壁面に作用する地震時土壓の實驗結果

(二〇分) 松尾 技師

五、表面處理砂利道の母體の組成に就て

(二〇分) 山田 技師

六、獨逸の國策に基く道路建設増補計畫並に

一九三九年四月の現状 (三〇分) 藤井 技師
村上 永一

◎鈴木莊六大將の計 樞密顧問官陸軍大將鈴木莊六氏(新潟縣人)は牛込區北山伏町二八の自宅で二月二十日心臟痲痺の爲逝去せられた。享年七十六

◎近刊圖書雜誌

◎都市問題(第三〇卷二號)

(本邦都市の史的觀察)

○東大陸(二月號)

(「技術と文化」野口川安衛氏Ⅱ小作統制令批判)

○警察協會雜誌(二月號)

○道路(二月號)(菊地明氏Ⅱ鋪裝の急務)

○法律時報(二月號)

(吉川末次郎氏Ⅱ地方制度改正案を評す)

○電氣通信學會雜誌(第二〇二號)

○企畫(第二卷一二號)

○セメント界彙報(第三八三號)

○觀光聯盟情報(第四卷一號)

○土木試驗所報告(第四九號)

○港灣(第一八卷二號)

○觀光Ⅱ(「國際觀光問題」(第八卷一號)

○土木建築工事畫報(第一六卷二號)

○滿和(第七卷一號)

○石油時報(一月號)

○鐵道軌道經營資料(一月號)

(中川正左氏Ⅱ東京地方の交通整理問題)

○汎交通(一月號)

(新東亞建設を目標とする交通政策、時局に直面したる

交通問題)

○三田學會雜誌(第三四卷一號)

○會報土木工業(第二卷一號)

○近世の商家使用人(彦根高等學校調査)

○水利と土木(第一三卷二號)

○土木(第五五號)

○土木學會誌(第二六卷一號)

○紀元二千六百年(二月號)

○建設(第四卷一二號)

○技術評論(第一七卷二號)

(松前重義氏Ⅱ技術國家管理論、西村眞次氏Ⅱ民族と技

術)